

日本保健医療社会学会ニューズレター (No.118) 2021/09/03

目次

1. 学会長挨拶
2. 第47回大会報告
3. 第48回大会について
4. 総会報告
5. 園田賞報告
6. 理事会報告
7. 定例研究会（関東）報告
8. 定例研究会（関西）報告
9. 看護・ケア研究部会報告
10. 渉外・国際交流活動
11. 会員の動向
12. 編集後記

1. 学会長挨拶

本年5月の総会で学会長を拝命いたしました小澤温（筑波大学）です。本来でしたらより若い世代の学会長が選出される方が望ましいと思いましたが、日本保健医療社会学会の創設に尽力された第1世代の諸先生から直接教えをいただいた世代として、本学会の初期の理念を踏まえつつ、現在の時代状況にそった学会活動をより発展させるべく、新しい世代につないでいく責務があると考え引き受けることにしました。

新体制になって初めての理事会が7月25日に開催され、そこで、この2年間で取り組むべき課題について検討しました。特に、第46回大会（2020年）、第47回大会（2021年）の2年間の大会がコロナ禍によりオンライン大会になったことは、ウィズコロナ時代を前提とした今後の学会運営を考える大きな契機となりました。具体的には、研究大会と定例研究会の開催に関して、対面とオンラインでの開催の利点と問題点を十分検討して、会員の参加や研究交流のしやすさを勘案しながら開催準備を進めていく必要があります。さらに、理事会や編集委員会などもこの2年間、ほぼオンラインによる会議になっていることから、同様に、対面とオンラインでの開催の利点と問題点を十分検討して、コミュニケーションのとりやすさを勘案しながら会議運営をしていくことも必要です。

このような状況の中でも、本学会の活動の柱は、研究大会の開催、定例研究会の開催、学会誌の刊行、会員への国内・国外の情報提供の4つの柱は変わりません。オンラインを含めた様々な取り組みを考える上でもっとも重要なことは、会員の研究成果の発表と研究交流の機会をできる限り増やし、この分野の研究活動の活性化を目指すことと思っています。ぜひ、会員の皆様の積極的な参加と学会運営等へのアイデアをいただきたく、2年間どうぞよろしくお願いいたします。

（小澤会長）

2. 第47回大会報告

第47回大会は、2021年5月16日(土)・17日(日)の2日間に渡って、オンラインでの開催となりました。大会参加者は、234名(一般会員:159名、学生会員:31名、一般非会員:28名、学生非会員15名、名誉会員(ご招待):1名)です。参加者数は予想を大きく上回り、盛況のうちに終了いたしました。

東京は緊急事態宣言下でしたが、「新型コロナウイルス感染症と社会」という大会テーマを掲げ、まさに進行中の喫緊の問題についてディスカッションの場を設けられたことは、本学会の大きな成果になったと考えます。

講演はCOVID-19の専門家として、武藤香織先生、美馬達哉先生、山本太郎先生(非会員)にお願いしました。シンポジウム(「回復の語りとコミュニティ」)は、南保輔先生、矢原隆行先生、野口裕二先生にご登壇いただきました。一般演題は、口演5セッション(26題[うち報告辞退1題])、ポスター7題、RTD9題でした。

また、本大会では、新たな試みとしてオンラインでのコミュニケーション・ツール“spatial.chat”を導入いたしました。大会サポーター長の樫田美雄先生と中堅・若手世代の学会員8名の大会サポーターにご尽力いただき、会期中は談話室をオープンし続け懇親会も開催いたしました。こうした試みも、今後は、学問的コミュニケーションの新しい形態のひとつとして位置付けられていくかもしれません。

今回、特に盛会でしたので、大会収支をご報告させていただきます。本学会の大会は、運営補助金20万円を学会から預かっての運営となります。その運営補助金全額を学会に返済してもなお、第47回大会では「178,941円」が残りました。

2021年7月時点の規定では、余剰金(黒字額)は大会校の裁量に任されるということです。そこで、大会校は学会に全額寄付をさせていただきました。もともとは会員のみなさまの参加費です。会員のみなさまのために有効にご活用いただくことを願います。(多数ご参加いただいた非会員のみなさまに還元できない点は、大会校として心残りです。非会員の参加者には、ご希望がある場合は大会抄録を無料で郵送するなど、大会校としてできる限りの配慮はいたしましたので、ご容赦いただきたいと思います。)

黒字の理由は2点あります。第1点目として、予想を超えて多くの方にご参加いただけたことです。今回大会は、特に非会員の参加者数の多さも目立ちましたが、新型コロナウイルス感染症に関するテーマのご講演があったためではないかと考えます。演者の先生方、ありがとうございました。

第2点目として、オンライン開催は参加者が少ないのではないかとご心配される声が、理事会から大会校にたびたび届き、大会校側が支出の削減を相当程度行ったためです。今回は、オンライン開催であり、かつ、大会校に本学会会員が大会長の私ひとりしかいないという事情で極めてコンパクトに大会運営ができたために、支出削減が可能となりました。特殊な条件下で支出削減が行われている点、こちらに記載させていただいたのは、予算面で今後の大会校に負担を強いる可能性を減らすためです。大会ごとに開催の条件は異なりますので、学会財政を考慮しつつも、その都度の大会に見合う大会参加費が設定されるべきであり、また、必要な支出は適切に支払わ

れるべきです。大会参加者数が見込めないなか難しい課題ではありますが、毎回丁寧に考えていく必要があります。なにより理事会には、現場で実際に運営にあたっている大会校側の意見にも耳を傾け、丁寧に向き合っていたいただきたいと切に望みます。

現在、多くの学会で会員数が減少しています。そんななか、第47回大会のように、大会校に学会員がひとりしかいないケースは今後もあり得ますし、むしろ、そちらがスタンダードになっていく可能性さえあります。こうした時代の流れのなか、学会大会の運営を“協働する喜びの場”としていかに構築していくかが問われてきます。柔軟かつ前向きな発想で、新しい工夫や仕組みを考えていくことが求められているのではないのでしょうか。学会は知と創造のプロが集まるクリエイティブ集団ですから、アイデアはいくらでも出てくることでしょう。

大会報告は以上となります。歴代の大会長諸氏と比べて、相対的に若く経験の少ない大会長ということでしたら点も多々あったと思いますが、分不相応の大役をお任せいただきありがとうございました。ご参加いただいたみなさま、ご協力いただいたみなさまに、深く感謝申し上げます。

(第47回大会長・中村英代氏[日本大学])

3. 第48回大会について

2022年5月28日(土)、29日(日)の2日間で開催する第48回大会は、開催校である松山大学の他、愛媛県内の各大学の看護学の先生方と実行委員会を組織して準備に当たっています。大会テーマとして「つながりと再生ーウィズコロナの現実を生きる」を掲げ、ウィズコロナの時代のケアについて記念講演を、そして感染症をめぐるスティグマについて記念シンポジウムを計画しています。対面での開催の復活が望まれますが、感染状況によっては、オンラインと対面を併用したハイブリッド開催もありえます。

(第48回大会長・山田富秋氏[松山大学])

4. 総会報告

第47回日本保健医療社会学会大会(オンライン開催)の2日目の2021年5月16日(日)に総会がおこなわれました。総会議案書にもとづいて、第1号議案から第6号議案まで報告があり、承認されました。各議案は以下のとおりです。

第1号議案：2020年度事業報告

第2号議案：2020年度決算・監査報告

第3号議案：2021年度事業計画

第4号議案：2021年度予算

第5号議案：名誉会員の推挙

第6号議案：次期会長の推挙

以上

(松繁前理事：前総務担当)

5. 園田賞報告

若手研究者の研究奨励を目的に 2006 年度に設置された日本保健医療社会学会奨励賞 (2013 年度より「園田賞」) の 2020 年度受賞者は、選考委員会による審査結果の報告を踏まえ、理事会で審議の上、以下の通り決定されました。

受賞者：柏崎 郁子

受賞作：「人生の最終段階」における無益性の解釈と Advance Care Planning (『保健医療社会学論集』第 31 巻 2 号、pp.36-46、2021 年)

2020 年度園田賞は、この年度に発行された本学会機関誌『保健医療社会学論集』(第 31 巻)に掲載された若手研究者による論文(総説、原著、研究ノート)を対象にして選考されました。

(中山前理事：園田賞選考委員会)

6. 理事会報告

1) 2021 年度第 1 回理事会 (4 月) ※2019-2020 期役員

日時：2021 年 4 月 17 日 (土) 15:00~17:00

会場：ZOOM 会議

出席者：朝倉会長、松繁理事、前田理事、蘭理事、本郷理事、天田理事、武藤理事、事務局 平野 (記 国際文献社)

欠席者：清水理事、戸ヶ里理事、中山理事

(※ 前理事会体制による理事会)

1. 第 47 回大会および総会についての確認 (朝倉会長、松繁理事)

総会議案書を確認し、修正が必要な箇所は後日、修正することとした。

2. 大会時評議員会の議題について (朝倉会長)

朝倉会長より評議員会の議題について提案があった。また、評議員の選出方法等、評議員の在り方について意見聴取することとした。

3. 各担当の新旧担当者間の引継ぎについて確認 (朝倉会長)

朝倉会長より次期役員への引継ぎ事項について確認があった。大会時に編集委員会、国際交流委員会を開催し、引き継ぐことが伝えられた。

4. 次期評議員について (朝倉会長)

総会議案書に記載の通り次期評議員の名簿を確認した。

5. 育志賞について (松繁理事)

日本学術振興会より育志賞推薦の依頼があったことが伝えられた。現状では審査等が難しく推薦を見送ることとした。

6. 編集委員会報告 (戸ヶ里理事、天田理事)

天田理事より編集委員会を 4 月 11 日に開催したこと、5 月 15 日 14 時 30 分より新旧編集委員会の引継ぎを行うとの報告があった。また、著作権譲渡についての覚書及び投稿規程が改訂されたことが伝えられた。

7. 渉外・国際交流活動の報告 (武藤理事)

開催予定であった第3回東アジア保健医療社会学会の開催が見送りとなったことが伝えられ、EASA (東アジア社会学会) が秋に開催することからその中で何かできないか検討中であるとの報告があった。

8. 入退会者の承認 (松繁理事)

新入会者8名の承認依頼があり、承認された。また、退会34名、資格停止退会9名の報告があった。

9. その他

天田理事より医学教育コアカリキュラムのワーキンググループを開催し、次期も引き続き同じメンバーで活動することが伝えられた。また、次期理事について報告があった。

以上

(松繁前理事：前総務担当)

2) 2021年度第2回理事会 (7月) ※2021-2022期役員

日時：2021年7月25日(日) 13:00~16:00

会場：ZOOM会議

出席者：小澤会長、戸ヶ里理事、天田理事、伊藤先生、本郷理事、前田理事、田代理事、石川理事、心光理事、中村大会長(第47回)、山田大会長(第48回)、事務局 平野(記国際文献社)

欠席者：井口理事

1. 第47回大会について (中村大会長・研活担当理事)

中村大会長より黒字分は学会へ寄付したいと提案があり、承認された。本大会に関する報告をニューズレターの記事に掲載することとなった。

2. 第48回大会の準備状況の報告 (山田大会長・研活担当理事)

山田大会長より企画案の説明があった。開催方法(対面、オンライン、ハイブリッド)については次回理事会までに検討することとなった。

3. 今後の学会運営の重要議題、並びに理事会審議の進め方について (小澤会長・戸ヶ里理事)

小澤会長より資料の通り今後も大会の開催、定例研究会の開催、学会誌の刊行、会員への情報提供を主として活動していくことが伝えられた。繰越金の使途につき、会費減額等の制度に加えて他に検討することとした。

4. 評議員制度について (戸ヶ里理事)

前期理事会からの引継ぎ事項として評議員制度見直しの説明があった。現在の規約に評議員の位置づけ、選出方法等を追記するかたちで検討することとし、継続審議となった。

5. 編集委員会報告 (井口理事・田代理事)

田代理事より編集委員を1名増員したこと、32巻1号は8月15日刊行予定として進めているとの報告があった。査読プロセスにおけるインシデントの報告があり、再発防止に向け編集委員会と編集事務局で作業内容等を明確化し、編集事務局に対し改善を求めていくこととした。

6. 研究活動委員会報告 (天田理事・前田理事・伊藤理事・本郷理事)

天田理事より今後は関東・関西関係なく年3~4回、定例研究会を開催することが伝えられた。8月末までに大会事務局と調整を行い、大会企画と連動した定例研究会を10月以降に開催する予定であること、若手研究者の著書等合評会は9月以降に開催する予定であることが伝えられた。9月11日に医療社会学研究会との共催企画を開催するとの報告があった。案内についてはメール配信にて行うこととした。

7. 会員広報について (心光理事)

ニューズレターの項目と担当者について確認があり、会員動向(入退会者数等)を追加することとなった。ニューズレターを含む会員全体へのメール配信は事務局への配信委託費の発生を鑑みて、広報担当理事が取りまとめ、理事メーリングリストを通じて配信内容を検討したうえで、事務局から配信することとなった。

8. 入退会者の承認について (戸ヶ里理事)

新入会者10名、学生会員への変更16名、常勤職にない会員の会費減額申請21名、シニア会員への変更12名の承認依頼があり、承認された。また、退会5名、逝去1名の報告があった。学生会員への変更、常勤職にない会員の会費減額申請、シニア会員への変更の申請の締め切りが7月末の為、理事会以降の申請者は8月上旬に理事メーリングリストにて審査することとなった。

9. 国立国会図書館 インターネット資料収集保存事業について (戸ヶ里理事)

国立国会図書館からのインターネット資料収集保存等の許諾依頼について説明があり、承諾することとした。

10. マイページについて (戸ヶ里理事・学会事務局)

戸ヶ里理事より会員自身で登録情報の更新可能であるマイページの導入の提案があり、承認された。会員検索機能は使用しないこととし、総務担当理事と事務局と相談の上導入作業を進めることとした。

11. その他

天田理事より前期理事会から活動している医学教育コアカリキュラムのワーキンググループについて今期においても継続していくことの確認があり、承認された。

以上

(戸ヶ里理事：総務担当)

7. 定例研究会(関東)報告

2021年度第1回関東定例研究会を下記の通り開催します。今回は、昨年ラグーナ出版から刊行された、海老田大五朗氏の著書『デザインから考える障害者福祉——ミシンと砂時計』の合評会となります。評者として、デザインのエスノメソドロジー研究に明るい秋谷直矩氏と、精神医療の社会学的研究を専門とする河村裕樹氏に、それぞれの立場からのコメントをお願いしております。障害者雇用の現場の実践において用いられているデザインを記述しようと試みる本書の持つ可能性について、参加者との議論を共有する機会と考えております。ぜひ奮ってご参加ください。

日時：2021年12月18日(土) 14:00～17:00

場所：Zoomによるオンライン開催

書評対象書：海老田大五朗(新潟青陵大学)『デザインから考える障害者福祉——ミシンと砂時計』(ラグーナ出版、2020年)

→出版社サイト (<https://store.lagunapublishing.co.jp/items/38926045>)

評者：秋谷直矩(山口大学)

河村裕樹(一橋大学)

※会員/非会員の区別なく、参加費無料で参加できます。

参加される方は、必ず下記より、参加登録を行ってください。

2021年度第1回関東定例研究会参加登録フォーム(<https://forms.gle/qz217jMTBiCKjbc7>)

問い合わせ先：日本保健医療社会学会研究活動委員会(jshms-kenkyu@bunken.co.jp)

(前田理事：研究活動担当)

8. 定例研究会(関西)報告

2021年度第1回の定例研究会を開催いたします。今回は、野島那津子会員が今春に上梓した『診断の社会学——「論争中の病」を患うということ』を書評本とする合評会になります。野島那津子会員は、「痙攣性発声障害」「筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群」「線維筋痛症」といった、患者の苦痛の訴えにもかかわらず生物医学的エビデンスがないとされるといふ診断をめぐる論争に巻き込まれた患者が不必要に疲弊させられる様相を考察しています。論争中の病を考察することは、従来の「診断」に関する自明性を疑い、患う人の困苦をどのように分析すべきかについて反省をうながす、非常に今日的かつ野心的な試みであることが書評本から読み取ることができるかと思えます。

今回の合評会は、著者によるご著書の紹介を省略し、最初にお二人のコメンテーターからコメントをいただき、著者からのリプライの後、フロアに議論を開放するという流れで進行します。コメンテーターは、おもに関西で活動している医療社会学者らが参加している医療社会学研究会(<http://square.umin.ac.jp/sociomed/>)からお二人にお願いしています。書評本で批判的考察の対象となっている医療化論を研究している佐々木洋子会員、自閉症スペクトラム障害をめぐるポリティクスを研究している渡辺翔平会員から、それぞれこんにちの診断をめぐる論争の観点からコメントをいただき、「診断の社会学」に関する展望を広げていきたいと考えています。

なお今回は、医療社会学研究会主催のオンライン開催(Zoomによるリモート開催)となります。参加を希望される方は、書評本をご一読の上、前日までに下記サイトにて参加登録をお済ませ下さいませよう、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

<https://forms.gle/yEY8EfyZKFMUHWw8A>

当日のZoomアドレスは参加申込時と、開催が近くなってからのリマインダーでお知らせします。本学会会員、もしくは医療社会学研究会メンバーのみならず、多くの方からの参加と積極的

な議論への参加を心よりお待ちしております。

日時：9月11日(土) 15:00～18:00

場所：オンライン開催 (Zoomによるリモート開催)

書評対象本：野島那津子(石巻専修大学)『診断の社会学——「論争中の病」を患うということ』(慶應義塾大学出版会、2021年)

コメンテーター：佐々木洋子(和歌山県立医科大学)

渡辺翔平(大阪府立大学大学院)

進行：美馬達哉(立命館大学)

※当日参加可、参加費無料

(本郷理事：研究活動担当)

9. 看護・ケア研究部会報告

1) 2021年度第1回定例研究会報告

日時：7月17日(土) 14:00～17:00

場所：オンライン開催 (Zoom)

報告：「通常学校で活動する看護師の効果と課題—通常学級の担任のインタビューを分析して—」
(荻野貴美子さん：星槎大学)

概要：今回発表した研究の資料は、中学校で活動する当事者の看護師の実践について、その効果と課題を見出すことを目的として教員へインタビューして分析した内容を、雑駁にまとめたものである。参加者の方から、看護師の当事者研究であるならば、看護師と生徒、保護者、教員、養護教諭、校長など周囲の関係性の明確化、教員の言葉と看護師の現実の対比、障害学や社会福祉学から生徒の自立について分析することもこの研究の意味に繋がってくるのではないかとご意見をいただいた。また、参考文献、誤字・脱字等も配慮するようご意見をいただいた。今後は、インタビュー内容と共に、学校におけるフィールド全体の展開図と小児看護学、障害学、社会福祉学もふまえ、当事者研究の強みを活かすべく考察を深めたい。

2) 今後の予定

<第2回>

日時：11月20日(土) 14時～17時

開催方法：オンライン開催 (Zoom)

報告者：鹿島謙輔さん(放送大学大学院)

<第3回>

日時：2022年1月8日(土) 14時～17時

開催方法：オンライン開催 (Zoom)

報告者：未定(募集中)

<第4回> ※関東定例研究会との共催

日時：2022年3月26日(土) 14時～17時

開催方法：オンライン開催 (Zoom)

現在、部会役員と学会の研究活動理事とで企画を検討し講演依頼等の準備を進めています

(清水評議員：看護・ケア研究部会)

10. 渉外・国際交流活動

国際交流委員会では、国際社会学会 (ISA) をはじめとする国際学会に関する情報提供を行い、連携を深めていくとともに、保健医療社会学領域の海外研究者の講演・セミナー等の情報提供を行っています。関連する分野の国際学会について、随時メーリングリスト、ホームページでご案内しています。海外研究者招聘の予定や、オンライン開催を含め、学会員の参加が可能な講演・セミナー等がありましたら、ぜひ情報をお寄せください。

以下、メーリングリストで流した国際学会情報をアップデートして再掲します。

◆第94回日本社会学会大会

2021年11月13～14日の会期中、テーマセッション【2】Patients Public Involvement: Health Social Movements and Collective Impact (英語発表) が予定されています。

<https://jss-sociology.org/meeting/20210420post-11572/>

◆イギリス社会学会 医療社会学部会 (BSA Medical Sociology Group)

2021年9月3～24日に医療社会学月間として開催予定です。

<https://www.britsoc.co.uk/events/key-bsa-events/bsa-medical-sociology-2021-medsoc-month/>

◆ヘルスケアコミュニケーション国際会議 (ICCH, International Conference on Communication in Healthcare)

2021年10月17～20日にオンラインで開催されます。医療系、人文社会系の様々な専門領域から、保健医療におけるコミュニケーションに関心をもつ研究者が集まる学会です。

<https://achonline.org/ICCH2021>

◆第2回東アジア社会学会 (EASA, East Asian Sociological Association)

2021年10月29～30日にオンラインで開催予定です。Sociology of Health というグループが設立されています。

<http://www.easasociology.org/?p=1168>

◆第16回世界生命倫理学会 (WCB, World Congress of Bioethics)

国際生命倫理学会主催で、2022年7月20～22日にスイスで開催予定です。

<https://iab2022.org/frontend/index.php>

◆世界老年学会議 2022 (IAGG, International Association of Gerontology and Geriatrics)
2022年6月12～16日にアルゼンチンで開催予定です。国際老年学会は、老年学に関する学際的アプローチをする国際学会として多くの社会科学者も集う世界最大級の会議です。

<https://www.iagg.info/>

◆第20回世界社会学会 (ISA, World Congress of Sociology)

国際社会学会によって2022年7月に予定されていたメルボルン大会は、2023年6月25日～7月1日への延期が決定しました。

<https://www.isa-sociology.org/en/conferences/world-congress/melbourne-2023>

(石川理事：渉外・国際担当)

1.1. 会員の動向

2021年4月1日～2021年7月31日までの申請者数は下記の通りです。

入会者数：通常会員13名、共同発表会員3名、学生会員2名

退会者数：通常会員6名

学生会員への変更数：24名

シニア会員への変更数：13名

常勤職にない会員の会費減額申請数：23名

(学会事務局)

1.2. 編集後記

ニューズレターNo.118では、今年5月に開催された第47回大会や総会、理事会、研究活動の報告を中心に掲載いたしました。第48回大会のより詳しい情報につきましては、次号での掲載を予定しています。

日本保健医療社会学会ニューズレターは、No. 92からPDFファイルのメールマガジン形式で配信しています。また学会ホームページ (<https://square.umin.ac.jp/medsocio/>)でも公開しています。

(心光理事：広報担当)

発行：日本保健医療社会学会 編集：広報担当 (心光世津子)

学会事務局：東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

jshms-office@bunken.co.jp

TEL：03-6824-9375